

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 62

| | |
|-----------|--------------------------------|
| 学校名・団体名 | 岡崎市立竜谷小学校 |
| コース | 学校支援 |
| 活動・研究のテーマ | 地域の人的・物的資源を活用した教育課程の実現と学習過程の改善 |

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 ねらい

- ① 地域資源や生命の有限性や自然の大切さ、また、他者や地域との協働の重要性を実感するための体験活動を充実させ、学校や地域の環境に学び、地域の未来について建設的に考え、学びを人生や社会に生かしていくなど、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育成する。
- ② 学習の基盤としての言語活動（レポートの作成や、立場や根拠を明確にして議論するなど）を充実させ、発達の段階に応じた、語彙の確実な習得、意見と根拠、具体と抽象を押さえて考えるなど、情報活用能力（情報を正確に理解し、適切に表現するなど）を育成する。
- ③ 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行うことで、学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間の「見通す」「かかわる」「見直す」を意識した学びのサイクルを通して質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解するとともに、生涯にわたって能動的に学び続けることができる資質・能力を育成する。

2 主な実践

- ① ふれ合い体験学習 …地域のお年寄りに学ぶ3世代交流
- ② ボランティア活動 …学区の主要拠点の草取りと落ち葉ひろい
- ③ 農作と収穫体験 …さつまいものつるさし、学年の木（実のなる木）の世話、収穫と収穫祭
- ④ 縦割り活動 …運動会リレー、ボランティア清掃、作物の植え付けと収穫、なかよしランチ
- ⑤ 地域施設との交流 …保育園や幼稚園の園児との交流会、老人養護施設訪問
- ⑥ ランチ交流 …ふれ合いランチ（地域の方と交流会食）、なかよしランチ（学年交流会食）、給食試食会
- ⑦ 言語活動の充実 …読書タイム、毎朝の言葉の学習、俳句づくり、文集制作
- ⑧ 情報活用能力の育成 …プログラミングソフトを利用した表現活動
- ⑨ 授業づくり …道徳研修、授業研究、ICT活用研修、地域素材の教材化、地域の学びと働きかけ
- ⑩ 校内環境整備 …学校再生整備事業モデル校（岡崎市）、ICT環境整備

3 活動時期と内容

① ふれ合い体験学習（6月）

地域のお年寄り71名を学校に講師として招いた。保護者にも参加していただき、3世代がふれあいながら、昔から伝わるおもちゃ作りと遊び（折り紙・割り箸鉄砲・おじゃみ・紙玉鉄砲・水鉄砲・竹馬・竹とんぼ・凧）を体験した。子供たちは、小刀の使い方や縄の締め方など、お年寄りの技に感動し、意欲的に活動した。

② ボランティア活動（6月・11月）

地域の方がよく利用する学区内の場所（公民館2か所、神社1か所、山道1か所）を拠点として、その周辺の清掃を行う「学区ピカピカ大作戦」を実施した。6月は草取り、11月は落ち葉拾いを中心として、縦割り班（1年生から6年生までの混合班）で実施。地域の方や保護者の方も参加していただき、交流の場となった。

③ 農作と収穫体験（5月・9月～11月）

5月に、縦割り班でサツマイモのつるさしを実施。その後は、水やりや草取りなど世話をし、11月に収穫して焼き芋にした。出来はいまひとつだったが、子供たちは目を輝かせて収穫できた。その他、それぞれ学年で世話をする「実のなる木」（ミカン、キウイ、ウメ、ビワ、カキ、クリ、カリン）の観察と収穫を行った。

④ 縦割り活動（通年）

学年単学級の本校は、子供同士のコミュニケーションが滞りがちである。その状況を打開するため、学年を超えて班編成を行い活動させた。運動会リレー、学区ピカピカ大作戦、作物の植え付けと収穫、なかよしランチ交流等の活動を実施した。

⑤ 地域施設との交流（12月～2月）

地域の施設と教育力を積極的に生かすため、1年生は、学区にある保育園に訪問して交流会を実施した。また、本校へ入学する予定の保育園や幼稚園の園児を学校へ招き、交流体験入学を2回実施した。また、6年生は、キャリア教育として、保育体験をしたり、老人介護施設を訪問して交流会を行ったりした。

⑥ ランチ交流（10月・11月・2月）

4年生は、祖父母や地域のお年寄りを学校に招いて、交流会食を行った。毎日食べている給食を体験してもらいながら、会話を弾ませていた。また、縦割り班で実施した、なかよしランチ交流（全校）や、1年生は保護者を招いて給食試食会も実施し、保護者や地域、子供同士の交流活動を積極的に行った。

⑦ 言語活動の充実（通年）

語彙を増やし、言葉の表現力を高めるために、毎朝15分間を読書の時間とした。また、毎週金曜日はデジタル教材を使って、ことわざやいろはかるた、漢字の成り立ち、対義語と類義語等について全校で学習する時間とした。5年生、6年生は、11月に講師を招いて俳句づくりに挑戦した。一年通して、低学年は詩、中学年は短歌、高学年は俳句に親しみ、年度末に文集としてまとめた。

⑧ 情報活用能力の育成（通年）

低学年はビスケット、中学年は文部科学省のプログラミン、高学年はスクラッチを使って、プログラミングに親しんでいる。例えば、1年生は体育の表現遊びの授業で、自分の動きを考えるためにプログラミングソフトを活用した。

⑨ 授業づくり（10月・11月・2月）

10月と2月に、有識者を招いて校内授業研究会を実施した。発問の仕方など、授業の基礎基本から、子供同士のかかわり合いの場の設定など、教師の授業力アップの機会とした。また、プログラミング的思考の育成を踏まえた教科学習の在り方について、校内学習会も実施した。5年生は、地域にある「桜並木」や「山辺の道」を教材化し、自然の保護と防災について地域を考える単元を構成した。子供たちは、地域に学び、自分事としてどうかかわっていくか、真剣に考える機会になった。

⑩ 校内環境整備（通年）

本年度、岡崎市学校再生整備事業のモデル校として、校内及び校外が大きく改修され、電子黒板やタブレットPC等のICT環境が充実した。また、それに合わせて、樹木やビオトープ、中庭の緑化環境整備も、あらためて整備の手を加え、自然素材を教材化して学習に取り込める環境を整備できた。

4 成果

地域の教育力を積極的に教育活動に生かしていくことで、世代を超えた情報交流と、子供たちの地域への愛着を高めることができた。また、小規模校であるがゆえの閉鎖的になりがちな人間関係を脱却するとともに、子供たちは、自分を表現することに自信が持てるようになってきたように感じている。

